

遮熱性舗装

臭気レベル5分の1に

商店街でも安心施工

NIPPO

NIPPOは、低臭タイプの遮熱性舗装を開発した。遮熱塗料のベースとなる従来の強い臭気を持つメタクリル酸メチル(MMA)樹脂の代わりに、低臭MMA系樹脂を使用。遮熱性舗装として期待される路面温度上昇抑制や耐久性といった機能を保持しながら、臭気レベルを業界トップクラスの5分の1に抑えることに成功した。施工時の臭気が原因で遮熱性舗装の導入を断念することもあった商店街などの需要が見込めるようになり、提案活動に一段と力を入れていく方針だ。10年度に3万4000平方メートルだった施工実績について、「本年度は5万平方メートルを目指す」（生産技術グループ）と意気込む。

低臭タイプは、遮熱性舗装シリーズの新たなラインアップとして開発。でも、同程度の路面温度「パーフエクトクールM」の名称で営業活動を展開していく。強さを確保。さらに車両



施工時のにおいが原因で導入を断念していた問題も解消できる

従来は、MMA樹脂を使用した遮熱性舗装と比較して、抵抗性能も備えた。施工時の臭気も5分の1に抑えることで、特に、歩行者に不快感を与えない

ような問題も克服することができ、従来のMMA樹脂が消防法による危険物第4類第一石油類に位置づけられ、許可無く保管できる量が200kgだったのに対し、同第三石油類となる低臭タイプは、10倍の2000kgを保管することができ、大量の施工にも対応しやすくなる。低臭タイプはすでに、商店街や駅前ロータリーなど4件、4000平方メートルの実績があり、今後の本格展開で施工量をさらに積み上げていく計画。歩道・公園・広場から軽交通道路、重交通道路までに幅広く対応できる製品ラインアップがそろったとして、適材適所への導入を提案していく。夏場の電力不足が懸念される今年は、路面温度の上昇抑制が間接的に節電につながることも売り込み材料としていく。昨年度実績では、路面温度の上昇抑制でわだち掘れの発生を抑えることができたという効果を期待して、空港の誘導路などにも採用されるなど、市場が広がっている。また、遮熱性舗装を取り入れた精密工場では、「導入前後で製品の不良率が下がった」という報告もある(同)として、さまざまなお墨をPRしながら、実績拡大を目指していく。